



東明

□令和3年10月1日発行

□男鹿市立男鹿東中学校

男鹿市船越字根木169番地

コロナ禍を吹き飛ばし 東中祭大成功！

テーマ To be united～心を密に 笑顔こそ最高のワクチン～

9月3日(金)、東中祭を開催しました。新型コロナウイルス感染症拡大の勢いが収まらない中、今年度も会場を男鹿市民文化会館に移し、半日日程で行いました。十分な間隔がとれるバスでの移動、手指消毒や換気の徹底など万全な体制で臨みました。今号では、当日の様様をドキュメンタリー風にお送りします。

◇9:10 開催式

観客を引きつけるオープニングムービー。そして、動画と会場を歩き来するような効果を取り入れた執行部のオープニングアクトで、東中祭への期待は高まります。



◇9:25 合唱コンクール

本番直前まで練習を積み重ねてきた成果が、見事な歌声となって大ホールに響きわたりました。

1年生は、フレッシュな歌声で、各クラスの個性が伝わってくる合唱を届けてくれました。東中生としての自覚が育ってきていることが、一生懸命な歌声から感じられました。2年生になったときの合唱に、期待がふくらみました。

2年生は、元気で、迫力のある歌声を届けてくれました。3年生顔負けの合唱を創り上げたクラスもありました。来年は、最上級生として東中を任せられると確信できる歌声になりました。

3年生は、どのクラスの合唱も完成度が高く、重量感のあるハーモニーを聴かせてくれました。曲に込められたメッセージが歌声に乗って伝わってきました。3年生が、令和3年度の東中の最上級生であることを、誇りに思います。卒業式にもきっと心に残る素晴らしい合唱を創り上げてくれることでしょう。



△学校グランプリに輝いた3C

△最優秀伴奏者賞
3C佐藤理子さん(左)と
最優秀指揮者賞
3D三浦颯悟さん(右)

私は、合唱コンクールの本当の成果、つまり、クラスの絆や団結力が本物であったかどうかは、3か月後に現れると思っています。勝つこと、合唱をすることのみを目標にしたクラスは、今日のステージ終了と同時に、心は離れてしまいます。結果より、心を通わせることや、合唱をみんなで楽しむことを目標にしてきたクラスは、そこから更に、太くかけがえのない絆を結んでいきます。今回の全クラスの歌声は、間違いなく後者でした。

合唱は、練習の過程でのいろんなことを乗り越えて、一人一人の声と心が一つになってはじめて創り上げられるものです。今年度の東中祭のテーマ「To be united」そのものです。合唱を創り上げる過程で、クラスの絆の中に自分があると実感した瞬間を、これ

からも大切にし、クラスの絆をかけがえのない、唯一無二のものにクラス全員で育てていってください。

◇11:10 吹奏楽部演奏

今回、ようやく、全校で吹奏楽の生の演奏を聴かせていただくことができました。迫力ある響き、繊細な音色は、生でなければ味わえないものでした。これをもって、部活動に終わりを告げる3年生の思いと、3年生を送る意味でも一生懸命にアンサンブルをつくろうとする1、2年生の思いが、一つになった演奏でした。また、ユーモアあふれる曲紹介、特別ゲストの富美男先生の登場も、会場を沸かせました。もっと、演奏を聴きたいと思わせる、楽しく、温かいステージになりました。



◇11:35 有志発表

有志発表では、出場者のパフォーマンスの勢いと熱気に圧倒されました。全校の前で得意技を披露してくれた皆さんの姿からは、自信をもってみんなに伝えよう、楽しませようというエネルギーを感じました。太鼓演奏で幕を開け、ソロやグループによる歌、女子バスケット部とラグビー部などによるダンスと、会場は、熱く盛り上がりました。そして何より、そのステージを盛り上げる全校生徒がすばらしかった。コロナ対策のルールを守り、大声を出さず、サイリウムなどを振っての応援する姿は、立派でした。



◇12:05 表彰・閉祭



東中祭の全てのプログラムを思い出深いものにして、アイデアを凝らし、準備をしてくれた執行部の皆さん。コロナ禍でもできることを考え、それを見事に実現してくれました。短時間の中に内容の濃いプログラム満載で、感動あふれるものとなりました。

東中生の勢い、優しさ、底力、可能性を、実感した東中祭になりました。すばらしい東中祭をつくってくれた全校生徒に感謝します。

来年こそは、東中を会場に、多くの皆さんに東中生の活躍する姿を生でご覧いただけることを願ってやみません。

(文責 森山)